

# 近世異聞

全

類	和書門
號	三六六八三
函	一四六
架	九
冊	一〇

內閣文庫	和書
號	三六六八三
冊	一〇
架	九
函	一〇

內閣文庫	
番號和	36683
冊數	10 ( 1 )
函號	151 35

地

共十



















洲より戦生卒の先引きしは海軍の士とありし  
我と先とせむ人ばあはししは若たむなけしは  
守軍の多はしそ卒乃先亮とありしは海軍の士  
て海軍の士とありしは海軍の士とありしは  
文化度の事が別是なり予亦方我の人の魯西  
人の如くありしは海軍の士とありしは海軍  
我よりしは海軍の士とありしは海軍の士  
心もあはししは海軍の士とありしは海軍の  
我よりしは海軍の士とありしは海軍の士  
別は海軍の士とありしは海軍の士とありし  
他邦の乃ありしは海軍の士とありしは海軍  
我よりしは海軍の士とありしは海軍の士  
我よりしは海軍の士とありしは海軍の士

一

事ありしは海軍の士とありしは海軍の士  
打破ししは海軍の士とありしは海軍の士  
波は海軍の士とありしは海軍の士  
若し海軍の士とありしは海軍の士  
小舟は海軍の士とありしは海軍の士  
形は海軍の士とありしは海軍の士  
卒は海軍の士とありしは海軍の士  
若し海軍の士とありしは海軍の士  
大舟は海軍の士とありしは海軍の士  
若し海軍の士とありしは海軍の士  
大舟は海軍の士とありしは海軍の士  
若し海軍の士とありしは海軍の士





















の論をなすべし。孔子曰民可使由之不可使知之とあり。抑仁義  
の源と探るは權樂の備は尋らざる。主吏の彼あり世除とくして  
考すはた。耕はは勤く。自抑と教ふあたうから。民の事也  
士を道に教ふ。教く。年長共教とす。時人々を以て。志を以  
多のこ。保はは教く。やま。その能く。路あり。は。民を以て。指せぬ  
お也。少後せぬ。とく。上と守。細く。は。或る。教は。降系  
又ら。教ら。も。あや。ま。もの。こ。上。たる。者。畜と。書。入。用。は。有。は  
人。以。是。一。年。育。は。為。く。一。事。成。と。許。一。病。者。は。憐。一。困。窮。は。救  
一。抑。は。明。一。新。一。教。は。以。し。仁。義。の。政。を。也。は。す  
政。と。ま。す。時。は。政。は。父。母。の。如。く。守。が。が。る。を。以。り。一。教。は。降。く  
も。以。て。は。も。ま。る。は。後。と。一。抑。く。の。は。は。有。る。は。之。の。民。と。有。り  
も。以。て。は。も。ま。る。は。後。と。一。抑。く。の。は。は。有。る。は。之。の。民。と。有。り

深しとせしむ。仁政を以て民の心を導く。も。抑。は。仁。政。を  
一。一。一。西。教。は。以。て。は。一。如。新。有。る。付。は。何。方。年。を。も。夫。人  
の。患。を。か。一。是。が。中。一。の。第。也。若。抑。は。一。は。夫。人。が。傳。を。と。以。り  
抑。は。母。は。も。も。一。迂。直。の。計。と。有。る。一。一。抑。は。自。前。の。事。一。は。う。有  
一。一。一。水。久。の。策。を。も。一。は。未。が。案。一。は。う。有。く。抑。は。り。也。は。抑。













運送御利おとせしむらんあまのたふと國をそと  
ハハ揚きしは是れをきり大島しむく又曰秋老  
くそんじ記ふふのくしき子頼りきとよそ所  
記をそと申又老人の地をきりし止ししし終ふ事  
城梅く是れ記に揚を完れく又水ハ沙撈越味  
しし老人の方を記ふは初くそんじききるあ  
幼の上候し只難いよの老人を懐かすその所客事  
眼目候そなれそ政頂兵庫の如く整えししし濃  
市公掛の如くし水府御東後後御老のしすく  
似る人やと云す

あゆみ年五月

水府御東のしすの若ふ

後々氏に記す

手記のあまのたふ

こはし水府のしす

都久志のしすの老のしすのしす

此年七月

後々御書

亞番室

戲馮國異番賀加利礫落  
 大之書出兵浦船墨川月  
 津舉翰乘急來暗亞驚外  
 繪黑能福祿孽星內雲廓  
 衆大為放謂方豐城隱悲  
 議區土地無西年示女中  
 師弦賣高頭說是正寵飛  
 匠三益器許秋癸游舩川  
 錢歡得武受夏丑庖水深  
 無有專容無人擲高鳴來  
 歎固酒國悉異捕果赦都  
 南海賣北茶挽西國免東

去年壬子春明朱氏後裔名華字元擘  
 蜀四川人年僅二十四發大志欲興復先朝乘  
 道光帝之變不用清正朔制度更明律明服建元  
 天德募兵放廣東諸州漸得十萬矣已而浙江  
 妖婦李氏亦擁衆十萬襲杭州殺府尹而應元擘  
 元擘會李氏定謀略攻拔廣東府及福建西湖  
 招撫清際將降率放是兵勢日強大也衆既三十餘  
 萬推元擘爲朱新王也諸港英夷亦屬蜀季秋八月  
 清主咸豐帝親征之不克韃靼亦起兵北方檄  
 聲言助朱氏襲清舊都據之進略寧古塔清  
 人降者許多諸府戰粟京師戒嚴票云  
 右嘉永癸丑四月自朝鮮國牒告長崎鎮臺之書

獻貢物之覽

一 蒸氣車

一 エレキトロマク子キステレガウーフ

一 英之船後付旗三 スループ 端船之事 式艘

一 亞丁聖利加產鳥獸

一 合衆國地圖

一 スウヨルン地物産記

一 海濱之圖

一 天秤分銅量具

一 羅紗

一 天鵝賊

一 星野月遠目鏡

一 香水類

一 刀ノリ力産之酒

一 樽

一 銘酒類品々

三 瓶

一 食用之品

一 瓶

一 茶

三 箱

一 書籍

十六 冊

一 火鉢

一

一 道中用袋

二

一 襪足袋 袴

五

一 鉄砲

三 挺

一 馬上刀

十二 挺

一 大焼方刀

六 挺

一 六挺仕掛短筒

一

一 短筒

七 挺

一 穀菜之寶

一 瓶

一 石版之繪

一 佛巻帳帳

一 鏡古鏡之類

一 白水類

一 花縫之絹物

古

一 阿部伊勢守之類

一 大ループ

一 艘

一 関光方函一統之類















長官の御用取柄に後六外中事にて大率取柄多し  
是又我由の御用定之給事御用是御用と申す  
此御用は御用と申す御用と申す御用と申す  
大皇帝の御用と申す御用と申す御用と申す  
御用と申す御用と申す御用と申す

癸丑年六月初二日

長官の御用取柄に後六外中事にて大率取柄多し  
是又我由の御用定之給事御用是御用と申す  
此御用は御用と申す御用と申す御用と申す  
大皇帝の御用と申す御用と申す御用と申す  
御用と申す御用と申す御用と申す

長官の御用取柄に後六外中事にて大率取柄多し  
是又我由の御用定之給事御用是御用と申す  
此御用は御用と申す御用と申す御用と申す  
大皇帝の御用と申す御用と申す御用と申す  
御用と申す御用と申す御用と申す

癸丑年六月七日

長官の御用取柄に後六外中事にて大率取柄多し  
是又我由の御用定之給事御用是御用と申す  
此御用は御用と申す御用と申す御用と申す  
大皇帝の御用と申す御用と申す御用と申す  
御用と申す御用と申す御用と申す



右数艘ハ ハヒールフルエル 地名之船  
弟三

ユルエツト 軍船一種之名

船名 ナシーモフ 船名 ヲクウツサア

昭長 船幅六百之合余

京組 一百六拾之人

并四

船名 フウールウルヘルム 船名 メンシーユフ

船長 於方八合余 船幅三百九合余

京組 四拾八人

右二艘ハ カムシカツト之船

右之通和解ニ由ルルハ...

此後復々往來有段大船之方...

此後復々往來有段大船之方...

此後復々往來有段大船之方...

此後復々往來有段大船之方...

此後復々往來有段大船之方...

此後復々往來有段大船之方...

此後復々往來有段大船之方...



十月廿九日

山陽守

長崎表上り申付候事

大目付様  
御座候事

百井記前守

川路左衛門尉

若尾左衛門守

古賀左衛門守

令後段

叶松云

御藏

山陽守

百井

若尾

古賀

享和六年二月廿六日

阿波守長門守兼備前守

大目付

西丸普作様御座候事  
御座候事  
御座候事  
御座候事

二月

大目付

西丸普作様御座候事  
御座候事  
御座候事  
御座候事

右通了云々上御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

二月

大目付





大... 通... 万石... 千石... 百石... 十石... 金... 兩... 匁...

九月

今... 石... 千石... 百石... 十石... 金... 兩... 匁...

一九千石 八千石 七千石 六千石 五千石 金百兩宛  
一四千石 三千石 金百五十二兩宛

一二千石 金百兩 一千石 金五十一兩

一九百石 八百石 金四十五兩宛

一七百石 金四十四 一六百石 金三十五兩宛

一五百石 金三十四兩 一四百里 金二十五兩

一三百石 金二十二兩 一二百里 金十五兩

一... 石... 千石... 百石... 十石... 金... 兩... 匁...

一 活江科と相除... 金... 兩... 匁...

一 活抄... 方... 十... 金... 兩... 匁...

一 ... 方... 十... 金... 兩... 匁...

一 ... 年... 十... 金... 兩... 匁...

大... 通... 万石... 千石... 百石... 十石... 金... 兩... 匁...

九月

不... 然...

今... 石... 千石... 百石... 十石... 金... 兩... 匁...

一 百... 八十... 金七兩 一 七十... 金五兩

一 四十... 金四兩 一 二十... 金三兩

一 十四... 金二兩



一 船隻

三千挺

右ノ如ク尚好越見亦船隻ノ及ニ トンドルは掛ノ事

一 シケールフスホキエニテ

船製造ノ法ヲ論ルハ書類多シヨ子六百四十五年以來

雖船製造ノ事細ク記シ書

一 メターレンカロンナニテ

一 トルベトレニ事ヲ詳不記シタル書

右ノ通リナリヨ馬島年持渡リ船紅毛人ハ詭テ遠ク在ル亦

トヨ子六百四十五年以後新製造ノ大砲有リタルヲ極多ク可

謂遣

今亦謂遣  
年中由所子也

甲寅正月十八日

法内意

水戸中納言殿

清平丸

市城内 美

英國船之備有方々一長夏も乃りく  
紅毛山 清平丸法船を信之

水戸中納言殿

因新ノ帝ニありりく 西丸 清平丸法船を信之

松平安蔭守

名代相平上総脚

因新ノ帝ニありりく 上野 清平丸法船を信之 長江ノ東 達ノ子 西丸 數  
若若ノ子 松平ノ用ニテナリ

松平右代守



母羽左衛門尉

中野鐵右衛門尉

東海道

津原越中守

主殿津原大隅守

中門 新法

阿波能守

東若西迄 市下川迄

日新... 右... 左... 陣... 取... 之... 大... 若... 乃... 務... 子... 守... 之... 為... 也

松平清政守

松平玄敏大輔

日新... 市... 大... 子... 以... 登... 其... 臣... 也

酒井左衛門尉

日新... 市... 大... 子... 以... 登... 其... 臣... 也

山崎大守

日新... 市... 大... 子... 以... 登... 其... 臣... 也

榊原武敏少輔

日新... 市... 大... 子... 以... 登... 其... 臣... 也

松平四郎守

日新... 市... 大... 子... 以... 登... 其... 臣... 也

松平越中守

日新... 市... 大... 子... 以... 登... 其... 臣... 也

用志之記

順井治理文

名代 順井安藤守

因新しき大板 浦内守備之 長年東連公守之 記

名代 大板守

名代 中門守

口新しき二条 中門守備之 長年東連公守之 記

名代 志田信濃守

口新しき甲府 中門守備之 長年東連公守之 記

松平和若守

因新しき場合 ありて 松平和若守備之 長年東連公守之 記

松平忠文守

名代 松平忠文守

名代 松平忠文守

口新しき大板 浦内守備之 長年東連公守之 記

名代 松平忠文守

名代 松平忠文守

五島左馬守

口新しき大板 浦内守備之 長年東連公守之 記

人教書の海防の方々の中より余の宗室の子弟に於て其の

宗 對 子 守

是少如海防の方々の中より余の宗室の子弟に於て其の  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守

法 師 守 忠

是少如海防の方々の中より余の宗室の子弟に於て其の  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守  
杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守 杉本守忠守

二月十八日

亞墨利加國王

一 種 紙 硯 の 紙

一 通

一 札

一 御

一 書 冊

一 組

一 廣 葉 書

一 組

一 花 生 書 冊

一 對

一 花 生 書 冊

一 對

一 花 生 書 冊

一 對

一 紅 羽 二 重

十 疋

一 白 羽 二 重

十 疋

一 紋 緋 緋

五 疋

一 板 編 緋

五 疋

使節

一 種 神子前傳

一 紅羽二重

一 白羽二重

一 紋編細

一 板ノ編細

船將始九人

一 紅白羽二重

一 板ノ編細

通辨寢

一 板ノ編細

惣古屋五十六人

一通

二疋

二疋

二疋

二疋

三疋宛

二疋宛

三疋

一 吸物梳

案組惣中

一 并式口袋

一 鶴三百羽

+

十人宛宛

但五斗入

大工色相別格演之宣二月廿五日より



西土三月廿八日阿比何德年辰書後書身寫

大目分

通其山宮德年此年... 無意教務... 以乃... 中... 勿... 另... 致... 古...

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



大目付

星由船渡来... 流子... 浦... 相... 振...

河... 任... 船... 船... 船...

可... 相... 作... 作...

三月

大目付

以...

世... 十... 不... 乃... 亦...





嘉永三庚戌年五月阿部伊藤守殿沙口達之覺

海岸津路等由命候進上被  
伊守殿方より此迄承知の事  
新寄吳波と好半事情より  
利不穩等事も取交へ申廻り  
之より元来非常中候事  
所候事より候事人心を  
難攻等申解り候事  
世有向と相逢可被置候事

嘉永三戊午三月十日於新部屋阿部伊藤守殿

被付候大因王様殿付性

近海山備向見方候 沖長津邊より内海方事書被付候



二月廿二

山内典子守

作原傳

大方

南世評判

後々見ざるも何少好まのま

後述の少説

老印日あはた大立物

七代目 白猿

随分評判もよく書きつら

福山

あつらふも少く根は

物高屋

あつらふも少く根は

故人のあつらふも少く

あつらふも少く

あつらふも少く根は

あつら

尾上松柳



松子の群書もかひり流し寄  
つひそもなる心

長岡

坂本

日影のまき流しつぼよま  
よせし

備前

岩

竹の群書とゆきせし  
まじり

徳島

岩

まじりつぼよま  
流し

西澤

流

市

まじりつぼよま

重

中村

何とせよま  
つぼよま

石川

実

中村の群書とゆき  
つぼよま

馬

岩

上村の群書とゆき  
つぼよま

奥

八代

郭ハ松本ノ骨ヲ新モトモリ  
 又リカノ支筋ノ和解  
 事田島ノ水

事ハ事ヲ務メテ務代ノ骨ヲ  
 鑑信金江ノ事ニ至

中村福助  
 中村福助

此君ノ故人日本一ノ政経修経也

志ハ中ノ人の為ニ成ルリトシテ

其流ハ...

此君ノ...

此君ノ...

此君ノ...

伊勢力度農郡

嘉永六年三月のとし六月二日

大へんくらうの方

大さへきふーの方

大さへきふーの方

ぬのちちあの方

炮じまの方

さいちりの方

たいせつの方

たいせんの方

さいちりの方

さいちりの方

引古算思案

到來 異船 一艘九百五十五乘



春ハ... 夏ハ... 秋ハ... 冬ハ...

正月 辰子二月 祐午三 月

四月 大ま五月 以又勝

七月 内河路八月 早勝利

十月 漸静土月 天下泰



あはれなるものぞつとてしん 西洋学の鏡ハ置て論せし  
皇國よはせしむるの如く人の権上のまよはれをば  
神日本ハ是神の由也之を學べ神代より人の代社会より  
さしよるもの原をうけたる多しといはれしをば  
いふは神の治身なりと云ふ所は物部のことと云ふは  
目のまよはれをいふことと云ふは神の治身なりと云ふ  
あはれなるものぞつとてしん 西洋学の鏡ハ置て論せし  
皇國よはせしむるの如く人の権上のまよはれをば  
神日本ハ是神の由也之を學べ神代より人の代社会より  
さしよるもの原をうけたる多しといはれしをば  
いふは神の治身なりと云ふ所は物部のことと云ふは  
目のまよはれをいふことと云ふは神の治身なりと云ふ  
あはれなるものぞつとてしん 西洋学の鏡ハ置て論せし  
皇國よはせしむるの如く人の権上のまよはれをば  
神日本ハ是神の由也之を學べ神代より人の代社会より  
さしよるもの原をうけたる多しといはれしをば  
いふは神の治身なりと云ふ所は物部のことと云ふは  
目のまよはれをいふことと云ふは神の治身なりと云ふ

嘉永六年秋八月

源 芳孫謹誌

あはれなるものぞつとてしん 西洋学の鏡ハ置て論せし  
皇國よはせしむるの如く人の権上のまよはれをば  
神日本ハ是神の由也之を學べ神代より人の代社会より  
さしよるもの原をうけたる多しといはれしをば  
いふは神の治身なりと云ふ所は物部のことと云ふは  
目のまよはれをいふことと云ふは神の治身なりと云ふ  
あはれなるものぞつとてしん 西洋学の鏡ハ置て論せし  
皇國よはせしむるの如く人の権上のまよはれをば  
神日本ハ是神の由也之を學べ神代より人の代社会より  
さしよるもの原をうけたる多しといはれしをば  
いふは神の治身なりと云ふ所は物部のことと云ふは  
目のまよはれをいふことと云ふは神の治身なりと云ふ





とらふに異国の船を打たるゝは其の終日也

○此度於朝鮮國諸官共之通辯之者共之及内法に  
近年中國の脚駱其甚一此年之末寂初志盜賊一揆傳之  
招子に於て其進之增長は其根元を明代之條款に  
氏習に相殘り其後今殺先代之恢復の名を被り岳甘衛  
引ホ之邊ヨリ起りて其由に於て

○彼國に今之卷説も有之る駱亂之主は洪姓の流黨  
皆中土人之國清朝之位を藉繋り其明之旧製に依り  
其由を一揆之主と爲す而家成婦女に被り擧るは依りて  
庶民安堵を被り泉州道冊岳冊等之案に武昌九江安慶  
之法を引續陷落し清朝之軍兵其歸多く其由に北京に

おのゝ由兵起り其他諸方より軍兵催使之世者無間新  
庶民困窮效用之兵糧運續位而富戸之金銀も無理  
奪取を相成り由又一役を豫引成隔入る由是亦亦等  
率團ヨリ起りて其今之孫子も亦亦之滋養之勢に被り駱  
部一下方なるに依りて其音も亦亦

右之類朝鮮に其由重く後人在傳に依りて中越る方其  
計中其由は其他其變之事に其思中其候也又  
其内其由は自然に違ひ其可方其此候其重く其葉  
少其由は其置るに極む其由は

京對島守島長

古川將監

佐治伊織







ありては日高をいふなりと金言は是れ一種の代官  
十日をいふは日高をいふなりと日高をいふは日高を  
代官をいふは日高をいふは二種三種も都立言を  
別合代官をいふは日高をいふは  
以後日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
代官をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
代官をいふは日高をいふは日高をいふは日高を

二月

日高

阿波川を河利河の河なりと日高をいふは日高をいふは  
アメリカの日高をいふは日高をいふは日高をいふは

浦里より日高をいふは日高をいふは日高をいふは

今より日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を

五月六日

日高

芝別日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を  
日高をいふは日高をいふは日高をいふは日高を

中守但之無法一歩も歩けず  
既に其後より其後其後  
中守但之無法一歩も歩けず  
既に其後より其後其後  
中守但之無法一歩も歩けず  
既に其後より其後其後  
中守但之無法一歩も歩けず  
既に其後より其後其後

五、六月三日

戸田伊豆守

海防掛付書

浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書  
浦安表に由りし御書

有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書  
有公一人... 浦安表に由りし御書





十月

大工奉行 江藤重隆

十月十五日

大目付

小目付

一 遠國奉行 且遠玉出用 亦以長目付 而旅帳 亦以依守 且遠  
道奥 亦以依守 及旅帳 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守  
亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

一 旅帳 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守  
亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

一 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守  
亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

一 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守  
亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

但具是權 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

一 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守  
亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守  
亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守 亦以依守

十月

大工奉行 江藤重隆

十月十五日



文久三癸亥年二月十三日

御上洛 御書付 御上洛 大層 御書付 御書付

御書付

御書付

一 文久三癸亥年二月十三日 御書付 御書付 御書付

御書付 御書付 御書付 御書付

一 御書付 御書付 御書付 御書付

一 御書付 御書付 御書付 御書付

一 御書付 御書付 御書付 御書付

一 御書付 御書付 御書付 御書付

一 御書付 御書付 御書付 御書付

御書付

一 火の用心ある言入 御書付 御書付 御書付

一 河内守有言を以て 御書付 御書付 御書付

一 御書付 御書付 御書付

文久三癸亥年二月十日

御書付 御書付 御書付 御書付

御書付





